（令和３年 ３月 22 日）

＜　ワンポイントレッスン（実践）＞

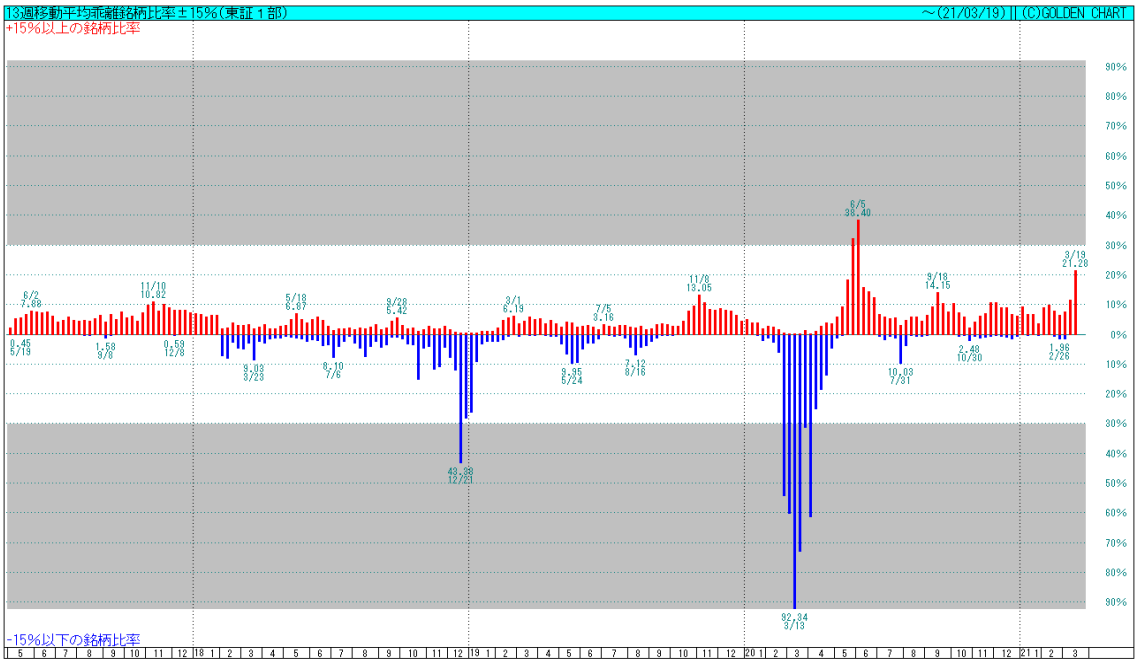
（ 最近の M・I（マーケット・インディケータ ））

・日経平均は、TOPIX 対日経平均相対比較や N・T 倍率など、TOPIX に対して相対的な強さ（行き過ぎ）が続きましたが、長期金利の上昇などで反転。

・ここにきて TOPIX は、出遅れ銘柄を物色する動きや新型コロナ感染拡大の収束後の業績の回復が期待できる銘柄の物色など、日経平均に対して優位の展開となっています。

・(M・I) マーケット・インディケータは、こうした動きを受けて過熱感はありませんが、先週の TOPIX13 週移動平均乖離率は、日経平均の同比率を上回り、弱い要注意水準に到達。また、物色範囲が拡がりを見せたことで騰落レシオは要注意水準に接近。13 週移動平均高乖離銘柄比率は、20%を超えて来ました。この指標は 30%越えが要警戒ラインですが小さい波動形成とみた場合は、20%越えから要トレースとなります。

（13 週移動平均高乖離銘柄比率、東証第一部）



All　Copyright © ゴールデン・チャート社

こうした流れが出遅れ銘柄や新型コロナの収束を受けての業績回復を買う動きに止まれば、この先の波動は小さいと想定しておくことも必要。アフターコロナにおける社会の構造変化、企業の構造改革と言った「大きな変化」を買う展開になることを期待です。

（了）